

足立区立江北桜中学校
校長 保坂 朗 様

足立区立江北桜中学校 開かれた学校づくり協議会
会長 今 西 靖 彦

平成30年度 学校関係者評価書

1 自己評価書全般について

- ・「学力向上アクションプラン」を全教員がそれぞれの教科に関して作成に加わり、全校体制で学力向上に取り組めた。また、各教科の教員による放課後に基礎学力不足生徒に対する学力補充（再テストや補充）、朝のベーシックタイムを継続したり、学習コンテスト（漢字コンテスト）（計算コンテスト）（スペリングコンテスト）を実施するなどして、生徒の学習量の増加を図り、学校全体の学力底上げ策を充実させたことで、区学力調査の結果は昨年度より上昇し、目標を達成した。
- ・いじめ防止対策委員会や特別支援教育部会を毎週定期的に行き、SCやSSWを交えた情報交換を計画的に行っている。いじめ対応についてその予防を図る指導の充実に努め、また発見に向けた観察や聞き取りや指導を確実に行った。また不登校対応は、SCやSSWとも役割分担をしながら取り組み、個々の生徒の目標を定めスモールステップで少しずつ学級への復帰段階を引き上げていけるようにしていく。
- ・学習指導（学び）の継続を中心とした高野小学校、江北小学校、扇小学校との連携事業は、年6回以上開催され、相互理解と教員交流はさらに深まり、中学校での学習指導に活かせるようになった。
- ・英語、数学の少人数指導を行うことで、授業における個に応じた指導を徹底し、「分かりやすい授業」「基礎学力の定着」「生徒が主体的に考える授業」の実現に向けた授業改善を精力的に進めている。
- ・教科指導専門員（英語）（数学）を招いて、「足立スタンダードなどに基づき、生徒の学びを主体にした授業づくり」や全体・個人指導を充実させ、教員の研究授業や授業力向上のための教科研修会の充実を図ることで、教員は教育力の向上に熱心に取り組んできた。
- ・全校体制で「家庭学習ノート」の提出を図ることで、家庭での学習習慣づくりを進めている。
- ・地域行事などで生徒のボランティア活動の参加も定着し、地域行事に欠かせない存在になっている。
- ・「ビューティフルウィンドウズ運動」が行われ、学校の環境が美しく華やかになった。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

- ・基礎学力の定着については、区学力調査の結果が向上していることが分かる。また、江北桜中が様々な学習機会の場を工夫して設定していることは、結果的には生徒の学習量の増加を図り、基礎学力の定着につながったと考える。そして、教師の授業力向上や放課後に個別指導などを積極的に行っていたら学力が向上したことは先生方に感謝したい。教員には「分かる授業」「生徒が主体的に考える授業」を展開できるよう今後も授業力の向上に励んでいただきたい。
- ・ふれあい挨拶運動では、保護者の方や協議会委員が多数参加しており意識の高さを感じた。今年度も生徒の服装の乱れもなく、日頃の指導がしっかりされているとともに安心して学校生活を送っていると感じた。

3 その他

- ・学校内外で大きな問題行動がなく、学校全体が落ち着いた中で教育活動が進められているということで、安心した。教室に入れない生徒等の基礎学力の定着補助のための「授業内別室登校」を行っているということなので、学習支援ボランティア等今後も地域が、さらに、不登校生徒が通いやすい工夫として教室環境の整備などを推進し支援していきたい。来年度は、新校舎へ移転となるが、地域は、生徒がたくましく生きるための基礎学力の定着や、健全育成のために一致協力して、今後も援助を惜しまない。